

伊東真奈 これまで そして これから

MANA ITO これから

真奈さんのモティーヴになる程々な雰囲気は、そこに居る人みんなが和やかに言葉を交わし合うことができる、優しい空気感を自然と生み出してくれます。
話し上手で聞き上手な真奈さんに気がついて「こちらがインタビューを受けてしまっていた」という場面もありました。
音楽にまよって向き合ってきた姿を感じていただけたらと思います。
ぜひ楽しんで読んでいただけたら幸いです。

ヴァイオリンを弾いていたお母まの影響が始めたというヴァイオリン

私と弟が生まれて母は演奏の仕事から遠ざかっていたのですが、私の幼稚園の友達がヴァイオリンに興味があり、経験者の母に「教えてほしい」と依頼が来ました。せろかなり自分の子ども達と一緒にやらせてみようとなり、幼稚園やご近所のお友達教人と一緒にヴァイオリンを教わるようになりました。

真奈さんが4歳の時、ヴァイオリンを始め、小学3年生ごろまでお母まに習っていました。弟の裕さんも遊びで楽器に触っていたそう。



自宅が教室だった。



人生で最初に、ヴァイオリンにたくさん時間をかけて向き合った時期でした。

小学6年生のときコンクールに出場し、入賞!

半年ほど小栗先生に教わりながら仕上げていきました。初めて大きなコンクールに出場するために奈良から東京へ行き、賞を貰ったことは「自身の中で」特に印象深い経験になっているそう。

当時、パルマンの演奏にハマっていて、CDをずっと聞いていたのとか! その音に憧れたい、憧れの曲だったのだから。

ウィーン交響楽の「華麗なるポロネーズ」が弾きたい!

自分でやりたいと言った曲でしたが、初めはなかなか弾けなかったそう。



奈良女子大学附属中等教育学校(中高一貫)へ進学

中学、高校どちらも普通科の学校でしたが、真奈さんの音楽活動ととても応援してくれたのだそう。

自由な自分の時間を確保できるようにしました。もし違う生活スタイルがやっていたらなあと思う。

大学入試前の球技大会にも出場する気満々でしたが、バレーボールは引退して先生から止められました(笑)

毎日、奈良公園の中を歩いて、若草山を眺めながら通学し、思い出は自分の中に強く残っています。



大学の先生方がコンサートで、その時に玉井先生がパリの無伴奏ソナタを全曲演奏していました。おぼろげに聞いたのと同時に先生の演奏も素晴らしいと感じました。その後、玉井先生の講習会へ伺い、改めて先生に習いたいと感じ、2年生からレッスンを受けるようになりました。

玉井先生のレッスンはどうでしたか?

とても楽しかったです! 先生は演奏だけでなく、生活面でも愛のある指導をしてくださいました。親元から初めて離れ、そこから大人になつていく過程を歩いていたのだと思います。



何度目かの反抗期を迎えたタイミングで、お母まのモトから離れ、最初に習ったのが高木和弘先生でした。その後高木先生が海外へ行くことになるので先生の紹介で習うことになったのが、おくり まちえ 小栗まち絵先生 小学5年生〜大学入学まで師事



小栗先生の指導はどの辺りのものだったか? ヴァイオリンを鎖骨から身体を通して響かせるか、鳴りか、また、エサ面からのエネルギー伝って右手は肩甲骨から体全体を使って弾くこと、響かせることなど、基礎的なことからしっかり教えていただきました。曲に付いてはとて細かく指導していたので、(1回のレッスンで1ページしか進まないという時もあり) 高校生になった頃からは、次第に自分で考えて弾けるようになっていきました。

東京藝術大学音楽学部へ入学

18歳で1人東京へ!! まっているのは... ホームシック 家のことをおぼろげに覚えていた。5月のGWには奈良へ帰省。冷凍食品を干す。結果、生活環境が変化した。滞在は夢の中のようなあの2年でした。



滞在は夢の中... 帰国後の秋から半年間、玉井先生のレッスンを再開して休学。

留学先のパリでは、美術食館によく通っていたのだそう。パリに行ってから印象派の作品にはくわしくなりました。ルノワールが一番好きです。



大学院を修了後、「読売日本交響楽団」のオーディションに合格し、2019年から読響のヴァイオリン奏者として活躍されています。実は... 読響がエキストラに行ったのは初めてのオーケストラだったそう!! 学生の頃、カルテットとして参加したリゾナーレ室内楽セミナーで「緑の風賞」を受賞。受賞者が参加できるリゾナーレ音楽祭にて読売日本交響楽団のヴァイオリン奏者、鈴木康浩さんと出会い話したことをきっかけにオーケストラにエキストラとして呼んでもらったといひます。



リゾナーレ音楽祭の音楽監督をされていた岡山先生にも学生時代、カルテットのレッスンで大変お世話になりました。

エキストラとして参加した時の思い出が、何度か見返りに行った際に「素敵なお手紙だ」と思っていたそう。



真奈さんと室内楽について

カルテット好きのお母まに連れられて行ったハーゲン・クワルテット Hagen Quartett のコンサートで衝撃を受けました。



室内楽との出会いは、どのようなものだったのでしょうか?

感動で思わず涙が出ることがありました。

この時に聴いたハーゲン・クワルテットの演奏をきっかけに室内楽が好きになりました。

ハーゲン・クワルテットは今も変わらず大好きです! 当時はCDも色々集めていました。

人生で初めて組んだカルテットは高校生の時、真奈さん、弟の裕さん、久貝ひかりさん、中村翔太郎さんと豪華メンバー!!



初めてのカルテットは「とても楽しかった」そう!! その後、大学でもいくつかカルテットを組む演奏の機会を増やしています。大学在学中は室内楽の経験もたくさんできて良かったといひます。

パリ留学から帰国後、室内楽をやりたいと考えていた真奈さんに友人が「八女音楽塾」を勧められて、参加することに。そこで出会ったのが、Music Dialogue 芸術監督 大山平一郎先生 でした。



最初のうちは音がでていなかったり、どう弾きたいのかわからなかったり、どう弾きたいのかわからなかったり、でも、厳しくもあたたかいご指導がとても的確で、先生からの学びは本当に多かったです。

そして何より先生のヴァイオリンから溢れる音楽に感動して、こんなふうに音楽ができたこと、打たれました。実は数年間、少し迷いながら弾いているような感覚があったのですが、大山先生のご指導が、小栗先生から教わっていたことと出まわって、ああ、それが「自然」と納得できました。そこから迷いがなくなり自信を持って演奏できるようになりました。

大山先生の音楽への真摯な姿勢や楽譜の読み解き方、作曲家のバックグラウンドへの深い理解や考え方に強く惹かれ、ぜひ一緒に演奏したいと思ふようになりました。お声がけいただいた際には喜んで参加し、現在は Music Dialogue アーティストとして公演に出演しています。



大山先生とはこんなエピソードも!!

はじめてMDの公演に参加した時のこと。弓が... 楽器店に連れて行ってくださいました。

ほんとに量に出された弓の中から大山先生が、数本に厳選。その中から真奈さんが「選んだ」弓を現在も使っているそう。

大山先生の素直な思いが、今の私に届いています。

これからについて

オーケストラに入団して経験を重ねる中で、少しずつ自分の立場にも変化を感じるようになっていきました。若手のメンバーが増え、先輩方が卒業される中で入団当初とは違う視点で周囲を見るようになっていきました。これから先、歳を重ねて、もし若い人たちに教える役になったときには、小栗先生や大山先生はじめ、世界の巨匠たちと直接言葉交わしてこられた先生方からいただいた、生の言葉や学びを、次の世代に伝える「つなぎ役」の存在になれたらいいなと思います。

オーケストラには尊敬できる先輩がたくさんいるのがありがたいです。



演奏では、どんな時でも「1音でも良い音、豊かな音色を出さないと」を大切にしています。オーケストラと室内楽の演奏は、お互いが繋がって影響し合うものなので、今はその双方を通して自身の中の経験を引き出しを増やして、日々進んでいっています。その「引き出し」は、音楽の場面だけでなく、日常生活や人との関わりの中で広がっていくものだと思います。日々の体験も演奏にいかせたいと思います。室内楽は中学生の時からずいぶん大切にしてきたものなので、これから継続的に取り組んでいけたら嬉しいです。

インタビューの中で「自分の引き出しを増やしたい」という言葉が何度か出てきました。オーケストラで今はファーストヴァイオリンで演奏していますが、席替えの際には、どちらの演奏も経験が出来るように希望を出しているそう。